

教育センター通信

第5号(通算 132 号)

令和7年9月30日

三条市教育委員会

教育センター発行

ほど
火床の火の心を紡ぐ

小中一貫教育

トップページ



わくわく科学フェスティバル

8月7日(木) 体育文化会館

全ての子どもに“居場所”をつくり、“学び”をつなぐ

学校教育課 指導主事 古澤 正雄

三条市の令和6年度の不登校児童生徒数は、小学校・義務教育学校前期課程で115人(令和5年度89人)、中学校・義務教育学校後期課程で163人(令和5年度166人)でした。ここ数年、高い数値で推移しているため、三条市教育委員会では、最重要課題と捉えて支援体制の強化を図っています。

(1) 不登校を生まない学校・学級づくり

① 校内教育支援センター(Special Support Room、以下「SSR」)の整備

今年度から、三条市内全ての学校にSSRを設置し、不登校支援員を配置しました。SSRで過ごしながらか教室での授業に参加したり、SSRからオンラインで授業に参加したりする児童生徒が増え、多様な学びを選択する中で、安心して過ごせる環境が整ってきています。

② 魅力ある学校・学級づくりのための研修の充実

外部講師を招いて、「学級づくり研修」を年3回、「WEBQU活用研修」を年2回実施し、学級経営の具体的な手法、WEBQUの結果の分析方法・活用の仕方について学ぶ機会を提供しています。また、希望する学校には、指導主事が訪問するオーダーメイド訪問を行っています。

(2) 不登校に対する関係機関との連携並びに支援体制づくり

① 三条市教育支援センター(ふれあいルーム)の活用

ふれあいルームはこれまで三条地域に1か所のみ設置されていましたが、今年度から新たに栄地域と下田地域に分室を開設しました。各施設では、一人一人の状況や希望に応じて学習活動などに取り組みながら心のエネルギーを蓄え、社会的自立へと向かう力を育む支援を行っています。

② 不登校対応力を高める多様な研修の充実

子どもたちを多面的に支援するために、支援体制の構築や医療機関との連携、SSRでの関わり方など、様々な角度から学べる研修を実施し、教職員一人一人のスキルアップを支援しています。

各学校でも、全ての子どもに“居場所”をつくり、“学び”をつなぐため、一人一人に寄り添った支援をお願いします。三条市教育委員会も連携・支援を行うとともに、今後も支援体制の強化や研修の充実に取り組んでいきます。

開催 20 回目の伝統行事 わくわく科学フェスティバル 8月7日(木)開催

わくわく科学フェスティバルは、今年で、開催 20 回目を迎えました。前日の大雨で開催が心配されましたが、参加者は保護者を含め 600 人、そして、出展関係者や活動支援スタッフを含めると 730 人を超え、活気のある大きな行事となりました。

ブースの出展には、市内・県内の中学校や中等教育学校、高等学校や高専、大学やNPO 法人、企業など 14 団体の協力を得ました。大雨のため、残念ながら一団体が参加できませんでしたが、第一中学校（科学部）をはじめ、13 団体に 15 のブースを出展することができました。また、新潟大学教育学部の学生や新潟県央工業高校の機械工作部員、市内教職員からは、活動支援スタッフとして協力していただきました。



コンクリートでキーホルダー作り



第一中学校（科学部）のスライム作り

どのブースでも子どもたちの笑顔や工作に取り組む真剣な表情が見られました。ブースを回りながら子どもたちと話をしてみると「きれいで楽しそうだよ。でもちょっと不思議!」「もっと上手に作りたいな」「ちょっと工夫したら、うまくできたよ」など、たくさんの感想を聞くことができました。

お子さんの隣では、保護者の皆さんも笑顔で写真を撮ったり説明を聞いたりしていて、一緒に活動を楽しんでいる様子でした。アンケートの一部を紹介します。

- ・来たのは3回目だったけど、いつもよりも楽しかった。(小3)
- ・いろいろな遊びがあって、何回もやりたいと思うものばかりだった。(小5)
- ・今までのフェスティバルにはなかったブースもあったので、去年と同じくらい楽しめた。来年もまた来たい。(中1)
- ・今年も楽しかったが、毎年ブースの内容を全部変えると変化があっっておもしろくなると思う。(中3)
- ・ずっと行列だったブースに並んで待っていたところ、終了 15 分前にもかかわらず、担当の方が親切に教えてくださり子どもたちも大満足だった。どのブースでも皆さん丁寧に教えてくれたのでよかった。(保護者)

子どもたちの笑顔にはすごいパワーがあります。その笑顔をもっと輝かせたいとブースの出展者は毎年、出展の準備をしています。「ありがとうございました。楽しかったです。」の声に笑顔で返す出展者の姿。「今年も楽しかった。また来たい!」「喜んでくれてよかった。科学に興味をもってくれたかな。」こうしたやりとりの積み重ねが 20 年間も引き継がれ、たくさん子どもたちが待ち望んでいる行事になっていることを改めて感じることができました。

参加している子どもたちや保護者、そして出展者がそれぞれの立場で科学を楽しむことができる素晴らしい行事です。第 21 回目のわくわく科学フェスティバルが、さらに魅力あるものになるよう計画していきます。



学園紹介

一ノ木戸ポプラ学園

一ノ木戸ポプラ学園では、自己有用感を高め、社会性を育むため、様々な場面で小学生と中学生による交流・協働活動を行っています。

5月の小中交流リトルティーチャー活動では、中学3年生が小学生と体力テストの伴走などを行いました。一ノ木戸ポプラ学園の小中一貫教育の柱、リトルティーチャー活動の1つとして定着しています。

7月～8月の職員研修では小中一貫教育各部研修等が行われ、小中職員が各教科や部会に分かれて協議を行いました。活発な協議を通して2学期以降の活動についてさらに連携を深める契機となりました。



リトルティーチャー活動



小中一貫教育研修

三条学園

9月12日(金)に今年度2回目のあいさつ運動を行いました。中学生が小学校を訪問し、朝のあいさつを通して交流しました。今年度は、保護者や地域の方に黄色い手袋などの黄色のものを身につけて参加していただきました。参加した中学生の振り返りには、「元気に挨拶してくれる小学生がたくさんいてうれしかった。」「地域の方が大きな声でおはようございますと言ってくれた。」など、達成感を感じている感想が多く見られました。また、9月8日(月)



9月12日 あいさつ運動

には、学園の6年生が中学生の授業を見たり、希望する部活動を体験したりする「6年生中学校体験」を行いました。6年生は、「授業で手をあげて発言している人が多かったので、自信をもって発言できるようにしていきたい。」と振り返っていました。部活動体験では、「先輩から優しく教えてもらい、初めてでも楽器の音が出てうれしかった。」との感想も聞かれ、中学生から「はやくおいで！」と声をかけてもらって嬉しそうでした。



9月8日 6年生中学校体験



瑞穂学園

9月11日(木)に西鱒田小学校、9月12日(金)に月岡小学校で小中あいさつ運動を行いました。第2回目となる今回は、本成寺中学校生徒会の2年生と3年生が小学校を訪問し、さわやかなあいさつを交わしました。地域の方々にも通学路などに立っていただき、子どもたちとあいさつを交わしていただきました。小学生と中学生のふれあい、地域の方と子どもたちのふれあいが生まれ、充実したあいさつ運動となりました。今後もあいさつを継続し、清々しい雰囲気があふれる瑞穂学園を目指していきたいと思えます。



小中あいさつ運動 9月11日 西鱒田小学校



小中あいさつ運動 9月12日 月岡小学校

教職員研修

算数・数学指導力向上研修 令和7年7月29日(火)・8月1日(金)開催

新潟大学附属長岡小学校の荒井琢郎様と、新潟大学附属長岡中学校の柴野浩輔様を講師にお招きし、「変化と関係」「関数」領域における授業づくりについて研修を行いました。本研修は、昨年度まで小学校算数と中学校数学の研修を同一講座で行っていましたが、講師との交流機会を増やし、参会者同士での演習を一層充実させるため、それぞれを別日で開催しました。

荒井様からは「数量関係を視覚化する」ための手法について、柴野様からは教科書の改訂内容を授業改善に生かす視点について、具体的に御教示いただきました。その後担当学年ごとのグループに分かれ、2学期に予定されている「変化と関係」領域における授業を具体的に構想しました。



参会者の感想 (一部抜粋)

指導者と交流しながらのグループ演習

- ・同じ学年を担当している先生同士で授業についてたっぷりと話せたのはすごくためになった。また同学年の担任の先生と話す機会があると嬉しい。【算数】
- ・関数指導について自分自身でも悩んでいたところだったので、多くの学びが得られてよかった。表・式・グラフの関連や、活用問題の工夫をしていきたい。【数学】